

新年のご挨拶

同窓会会長 西村 貞一 (45回)



日本は、一昨年 of 東日本大震災という千年に一度の大災害を経験し、原子力発電に支えられてきた産業のコメである電力エネルギーを将来どう確保するかという危機に直面しました。そして先進 G 8 国の中で、毎年政治リーダーが替わるという極めて不安定な政治状況と経済の長い閉塞状態から早く脱して、明るい未来が描けるようになって欲しいと願う此頃、ことしも早や 3 月の声を聞く時節となりました。

昨年 4 月に同窓会長をお受けしてから、かれこれ 1 年になろうとしています。この間に何ができたのかと思いますと、何とか形はできましたが、具体的にはあまり進んでいないなあと大いに反省している所でございます。

しかしながら、今年は学校は中学校の講堂の建て直しを計画されて、その他諸々の事業を合わせて創立 100 周年を祝おうと着々と準備を進められております。昨年 90 周年を迎えました甲陽学院同窓会はこれからの 5 年間、育英会、学校と協力しながら各種事業を着実に成功させていかなければならないとともに、その後迎える同窓会 100 周年に向けて、なるほどさすが甲陽健児と評価されるようなメモリアルな事業を発進させなければならぬと思っております。

また昨年これまでの会員総会運営・甲陽だより編集・ファンド・IT 各委員会に加え新たに会員名簿・会員交流委員会の委員長、委員が決まり、組織も出来上がって、これから本格的な活動が始まるものと大いに期待しております。長期の事業の達成をするのはもちろんであります。一方年々の事業についても一つ一つ確実に成果を上げていかなければならないと考えています。まず当面の大きな課題としてかねて懸案の会員名簿作成と 8 年前に始めた甲陽ファンドをさらに確実な資産とするために会員の

皆さまのご厚志に期待する次第です。

そして今年から年 1 回の夏の会員総会だけではなく、もう少し小型の会員会合(フォーラム)の場を設け、その時々 of タイムリーなテーマのもとに各分野のリーダーを招いて講演会や勉強会や会員相互の密接なネットワークを広げる懇親会などを開催しようとしています。このように委員会活動を中心に、より開かれた活力ある同窓会としていきたいと思ひます。

昨年 11 月開きました定例の理事会で、これまでは執行部からの事業～収支報告で会議終えておりましたが、時間がありませんでしたので、出席の全員の方々に日頃お持ちのお考えを話して頂くことができました。後で聞きますとそういう時間があったことがかえって好評であったようで、これも全員参加の同窓会活動につながるのではないかと実感した次第です。本年も会員の皆様のご健勝そして同窓会への一層のご理解、ご協力、ご支援をお願いしてご挨拶といたします。

皆様のご支援をよろしく願いして、新年のご挨拶とさせていただきます。



発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 西村貞一
印刷所
株式会社 小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用
TEL 0798-71-4888
(月・水・木 10:00~16:00)
FAX 0798-71-4890
E-mail:
fvpp1650@mb.infoweb.ne.jp
同窓会ホームページ
<http://www.koyogakuin-oba.jp>

目 次	
会務報告……………2~3	サッカー灘定期戦……………11
奨学金ファンド……………4	同窓会ゴルフ……………12~13
甲関戦……………5~7	サッカー初蹴会……………14
同窓生講演会……………8~9	追悼文……………15
会員だより……………10	会員総会予告・訃報……………16



白鹿クラシックス

Hakushika Classics

<p>レストラン&カフェ AM11:00~PM10:00 (ラストオーダー PM9:00) 明治時代の酒蔵を シック&カジュアルな和空間に。 0798-35-0001</p>	<p>ミュージアムショップ AM10:00~PM7:00 蔵元ならではの、 お酒にまつわるアイテムが大充実。 0798-35-0286</p>	<p>酒ミュージアム 白鹿記念酒造博物館 AM10:00~PM5:00 (入館は4時30分まで) 日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承。 0798-33-0008</p>
---	---	---

西宮市鞍掛町(礼場筋・臨港線交差点) ■定休日/火曜日

会 務 報 告

平成24年11月30日に行われました同窓会理事会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

1 平成24年度役員と委員会構成

西村会長より平成24年度の同窓会役員と同窓会活動を中心となって担う各委員会の構成について報告がありました。その内容は3頁に掲載しています

2 会報編集委員会

第86号を平成24年8月7日付で発行。発行日が遅れたことについて委員長からお詫びがありました。また、それに関しては西村会長から原稿の締め切りを厳守された旨の発言がありました。

紙面は、西村新会長の「就任あいさつ」、有田前会長の「松明は新しい世代に引き継がれた」、学校だよりとしては「創立記念音楽会」「高校体育祭」「高校バレーボール部全国私学大会2年連続出場」、会員総会の告知記事などでした。

次号第87号の原稿は1月10日締切、3月頃発行予定とのことでした。

3 会員総会運営委員会

平成24年8月25日(土)の午前11時から午後3時まで、ノボテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙行しました。

第1部は1階「鳴尾の間」にて式典とジャズ・ライブ。今回のゲストはベーシストの納浩一さん(60回)で、ピアニストの細川正彦さんとともにジャズの生演奏をしていただきました。演奏終了後、納さんと文化コーディネーター河内厚郎さん(52回)の対談「ジャズに魅せられて」もあり、いつもの会員総会とは違った雰囲気の中かで一同を音楽を楽しんだほか、甲陽の卒業生では稀有の、ジャズに魅せられ本場アメリカで学び、ベースでその道を極める納さんのお話を興味深く拝聴しました。

第2部は、会場を2階「甲陽の間」に移して懇親会。高原宏幸さん(52回)主宰の「おじさんバンド」であるNOSTクインテットによるロック・ポップスの演奏を聴きながらのパーティーとなりました。

当日の参加者は約280名でした。とくに新卒の93回生が26人も参加して下さり、老若あいまみえながらの楽しい宴となりました。

また、今回は平成25年8月31日(土)開催で、委員会を開いて内容を検討するとのことでした。

4 甲陽ファンド管理委員会

本格的にファンド委員会が発足してから8年目、在校生への支給を始めてから7年目を迎えます。

募金活動は平成17年度から開始し、皆様のご協力によりこれまで7年半で約5477万円の醸金が集まりました。

もっとも平成23年度は約321万円、平成24年度前期は約204万円となっており、やや募金活動が下火になってきていることが懸念されます。

在校生への給付実績は、平成18年度6名、平成19年度6名、平成20年度7名、平成21年度9名、平成22年度9名、平成23年度8名、平成24年度7名で、金額は1名につき年間で20万円です。

現在のファンド残高は平成24年9月末で約4435万円となっています。

5 今後の活動について

「会員交流委員会」は、夏の会員総会以外にも会員相互の交流と親睦を図るようなイベントを企画してはどうかとの意図であらたに設けられました。ゴルフだけではなく、いろいろなジャンルで同好の士が集まれるような企画を考えていきたいとの抱負が委員長より述べられました。

「会員名簿委員会」は長く発行が見送られてきた会員名簿の発行にむけて問題点を検討していく旨が委員長から述べられました。個人情報保護法の下でどのような形の名簿作りができるのか考えていきたいとのことです。

「会則検討委員会」では、現行の会則に直ちに不備があるというのではないけれど、新しい時代に即した会則のかたちについて考えていきたい、との趣旨が示されました。

※同窓会費の終身会費納付額設定表は下の通りです。

終身会費納付額設定表 (平成25年3月31日まで)

93回~87回	30,000円	73回	37,000円	59回	23,000円
86回	50,000円	72回	36,000円	58回	22,000円
85回	49,000円	71回	35,000円	57回	21,000円
84回	48,000円	70回	34,000円	56回	20,000円
83回	47,000円	69回	33,000円	55回	19,000円
82回	46,000円	68回	32,000円	54回	18,000円
81回	45,000円	67回	31,000円	53回	17,000円
80回	44,000円	66回	30,000円	52回	16,000円
79回	43,000円	65回	29,000円	51回	15,000円
78回	42,000円	64回	28,000円	50回	14,000円
77回	41,000円	63回	27,000円	49回	13,000円
76回	40,000円	62回	26,000円	48回	12,000円
75回	39,000円	61回	25,000円	47回	11,000円
74回	38,000円	60回	24,000円	46回~	10,000円

終身会費納付額設定表 (平成25年4月1日~平成26年3月31日まで)

94回~88回	30,000円	74回	37,000円	60回	23,000円
87回	50,000円	73回	36,000円	59回	22,000円
86回	49,000円	72回	35,000円	58回	21,000円
85回	48,000円	71回	34,000円	57回	20,000円
84回	47,000円	70回	33,000円	56回	19,000円
83回	46,000円	69回	32,000円	55回	18,000円
82回	45,000円	68回	31,000円	54回	17,000円
81回	44,000円	67回	30,000円	53回	16,000円
80回	43,000円	66回	29,000円	52回	15,000円
79回	42,000円	65回	28,000円	51回	14,000円
78回	41,000円	64回	27,000円	50回	13,000円
77回	40,000円	63回	26,000円	49回	12,000円
76回	39,000円	62回	25,000円	48回	11,000円
75回	38,000円	61回	24,000円	47回~	10,000円

平成24年度 同窓会役員と委員会構成

平成24年度の甲陽学院同窓会の役員と委員会構成は以下のとおりです。

役 職	氏 名	回 生
名 誉 会 長	有 田 和 男	31
会 長	西 村 貞 一	45
副 会 長	宗 田 久 雄	高商1
	泥 光 重	39
	宮 崎 恒 彰	42
	揚 野 寛	45
	今 西 昭	57
相 談 役	平 田 豊	22
顧 問	横 内 昭	34
	尾 山 啓 二	35
	中 村 貞 三	35
	田 村 眞 也	36
	守 殿 貞 夫	41
	大 川 貴 史	55
	専 務 理 事	箱 田 光 信
常 務 理 事	中 野 忠 夫	44
	西 村 公 男	46
	山 崎 仁 嗣	47
	辰 野 久 夫	51
	河 内 厚 郎	52
	吉 井 友 実	54
	森 口 匡	55
	嶋 吉 由 喬	62
	久 義 裕	62
	梅 谷 幸 弘	67

監 事	二 宮 一 明	33
	水 島 昇	49
	植 木 努	65

会報編集委員会		
委 員 長	森 口 匡	55
副 委 員 長	久 義 裕	62
会員総会運営委員会		
委 員 長	河 内 厚 郎	52
副 委 員 長	嶋 吉 由 喬	62
奨学金ファンド管理委員会		
委 員 長	泥 光 重	39
副 委 員 長	山 崎 仁 嗣	47
I T 委 員 会		
委 員 長	梅 谷 幸 弘	67
会員名簿委員会		
委 員 長	宮 崎 恒 彰	42
副 委 員 長	中 野 忠 夫	44
副 委 員 長	西 村 公 男	46
会則検討委員会		
委 員 長	辰 野 久 夫	51
副 委 員 長	揚 野 寛	45
副 委 員 長	今 西 昭	57
会員交流委員会		
委 員 長	揚 野 寛	45
副 委 員 長	吉 井 友 実	54

奨学金ファンド 回生別 醸金者数・醸金者率

回生	醸金者数	醸金者率	回生	醸金者数	醸金者率	回生	醸金者数	醸金者率	回生	醸金者数	醸金者率
4	1	(100.0%)	34	44	(74.6%)	56	27	(15.7%)	78	7	(4.2%)
11	1	(9.1%)	35	53	(60.9%)	57	52	(26.4%)	79	7	(4.2%)
13	3	(37.5%)	36	48	(64.0%)	58	27	(15.1%)	80	2	(1.2%)
15	1	(5.6%)	37	58	(53.7%)	59	22	(11.9%)	81	3	(1.8%)
16	1	(7.7%)	38	67	(69.1%)	60	27	(16.0%)	82	5	(2.8%)
17	3	(13.6%)	39	74	(65.5%)	61	10	(5.5%)	83	10	(5.7%)
18	11	(42.3%)	40	77	(63.1%)	62	30	(15.6%)	84	1	(0.5%)
19	6	(14.6%)	41	19	(15.3%)	63	11	(7.6%)	85	2	(1.1%)
20	14	(21.2%)	42	21	(16.7%)	64	19	(12.6%)	86	3	(1.6%)
21	5	(8.9%)	43	23	(17.4%)	65	12	(7.5%)	87	3	(1.5%)
22	7	(11.1%)	44	9	(6.4%)	66	7	(4.7%)	88	3	(1.5%)
23	10	(12.0%)	45	38	(27.7%)	67	10	(6.6%)	89	2	(1.0%)
24	11	(14.7%)	46	21	(12.7%)	68	7	(4.3%)	90	2	(1.0%)
25	13	(14.3%)	47	21	(12.3%)	69	12	(7.5%)	91	3	(1.5%)
26	0	(0.0%)	48	9	(5.3%)	70	7	(4.4%)	92	1	(0.5%)
27	25	(31.6%)	49	24	(13.5%)	71	3	(1.9%)	高商1	1	(3.8%)
28	7	(17.5%)	50	12	(7.2%)	72	22	(12.3%)	高商2	2	(5.6%)
29	5	(20.8%)	51	20	(11.3%)	73	3	(1.8%)	高商3	1	(3.3%)
30	2	(9.1%)	52	18	(10.3%)	74	11	(7.9%)	高商4	2	(5.0%)
31	43	(66.2%)	53	11	(6.5%)	75	15	(9.8%)	工専1	3	(23.1%)
32	6	(8.1%)	54	31	(18.0%)	76	8	(5.3%)	工専2	7	(13.5%)
33	38	(42.2%)	55	21	(10.9%)	77	3	(1.9%)	工経営	3	(10.7%)

*醸金者数は「延べ数」です。同一人物が複数回醸金された場合はその複数回をカウントしています。

**醸金者率を算出する際の分母は、回生ごとの人数から物故者と住所不明者の人数を差し引いた数です。

***いくつかの回生で「ご一同様」からの醸金がありました。それについてはやむをえず1人分でカウントしています。

甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

平成24年6月1日以降12月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成24年5月31日以前に醸金された方は73号～86号に掲載しております。)

19回	石井 賢治	38回	三木 則夫	51回	神戸 朋之	59回	島本 佳憲
20回	沖野 秀雄	39回	加輪上敏彦	51回	辰野 久夫	60回	初山 卓哉
23回	卜部 高史	40回	林 一郎	51回	宮岡 信博	62回	長宅 芳男
24回	奥田 修	42回	宮崎 恒彰	52回	井上 博夫	62回	吉岡 泰彦
24回	織部 成一	43回	衣笠 隆之	52回	小谷津 久	64回	岡原 正周
25回	堀 四郎	43回	小林 稔明	52回	高原 宏幸	68回	園田 将章
27回	光野 昭	43回	水上 進	52回	飛田 圭吾	69回	井関 一海
31回	八木 頼夫	45回	浅井 信雄	53回	井上 義朗	69回	玉木 興慈
33回	岸田 道彦	45回	小林 智夫	53回	若宮 互	69回	長谷川拓也
33回	若田雄太郎	45回	橋本 均	54回	酒井 清和	72回	横田 明彦
34回	江隈 一夫	45回	三田 文夫	54回	中野 茂	75回	岩佐 保
35回	尾山 啓二	45回	村田 至道	55回	大林 良和	76回	向井 啓治
35回	吉田 龍二	46回	近藤 宏	56回	大野 順弘	76回	山下 寿也
38回	江崎健一郎	47回	中川 久史	57回	白尾 誠二	78回	堀 敬輔
38回	大島 直也	49回	長島 久明	57回	中村 卓司	88回	岡本 将孝
38回	亀岡 壽男	50回	榊原 義夫	57回	藤見 忠生	工経	河合 康美
38回	高寺 美慈	50回	吉村 健一	57回	松本 禎之		
38回	羽田 英彦	51回	内田 邦彦	58回	川添 泰伸		

毎号毎号同じようなお願いばかりで恐縮ですが、今回も奨学金ファンドへのご協力をお願い申し上げます。

このファンドは、平成17年度から募金活動を始め、翌平成18年度から母校の在校生への奨学金支給を始めました。奨学生は、定期採用6名(各学年1名)と緊急採用(中学2名まで、高校2名まで)で、その選考は母校に一任しております。平成24年度は7名の在校生に奨学金(1人年間20万円)を支給いたしました。また、平成18年度からでは延べ52名の生徒が本奨学金を受給しました。

昨今の社会・経済情勢は、甲陽の生徒・保護者にとっても決して無縁ではなく、会社の倒産、リストラ、離婚など、母校の後輩たちを取り巻く環境は、良好とばかりは言えません。本奨学金制度は、間違いなく母校と在校生にとって有意義なものとなっています。

この奨学金制度を永続させるためには、ファンド資金の充実が必要なことは申すまでもありません。各回生におかれましては募金活動に取り組んでおられると存じますが、回生別の募金件数の表によりますと、57回生などこの1年間で特に積極的に取り組まれた回生もあるようです。感謝申し上げます。夏の会員総会のホームカミング学年を中心に今後とも募金活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

醸金方法は下の通りです。一口1万円から何口でも結構です。また、一度ならず何度も醸金下さる方も大勢いらっしゃいます。ありがとうございます。なお、税法上の寄付控除の対象にはなりません。

皆様ご存じのように、母校甲陽学院には、保護者・卒業生からの寄付を募らないという誇り高い方針があります。そんな中で、奨学金ファンドは、同窓生として母校に貢献できる数少ない機会の一つです。皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

【醸金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
 - (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
- (2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

学校だより



甲関戦 第60回大会実施される

「甲関戦も還暦か…」。思えば第一回のこの大会に出場された方は当時中学三年生だったとすると今75歳ということになります。大会を経験された同窓生、在校生の皆さんにとってこの大会に対する思いも、ほとんど記憶にないという方から、今も昨日のこのように鮮明に思い出す方まで様々でしょう。ただいづれにしても、(時にはきびしい社会情勢の中でも)60年間一度の中断もなく連綿と続いてきたことはその時々々の両校の生徒、先生の努力や支えがあってはじめて可能なことであり、簡単な事ではないでしょう。ここに伝統校同士の交歓会の重みや意義が見いだせるのではないでしょう。

そこで今回はこの節目にあたり、甲関戦を振り返った上で「甲関戦の今」もお知らせしようと思います。

甲関戦は1953年9月29日関学会場で、陸上、野球、サッカー、卓球の四競技でスタートしました。本校の第5代校長である芥川潤先生が、全校規模での交流を持ち親睦を図るとともに、スポーツを通じて切磋琢磨し合う事を目的として定期戦を持つことを考えられたことがきっかけで始まったと伺っています。競技種目には、途中からテニス加わり(第3回)ました。その後バレーボール(第7回)、水泳(第8回)、バスケットボール(第12回)が順に加わって八競技の形となりました。今のように九競技で争うようになったのは、剣道が加わった第40回大会からです。このように九競技で争う形は現在までも続いています。それぞれの競技で、単に勝敗を決めるための戦いを越えた戦いが、毎年繰り広げられ貴重な経験を生徒諸君にもたらし続けています。情熱や努力、成功や挫折、友情やたくさんの人に支えられている存在であるという意識、他校の生徒への尊敬と共感、もちろん愛校心、こういった多くのものを今も昔もこの交換競技会で生徒諸君は経験しています。

豆知識

第一回大会は雨で延期、会場も予定の甲陽から関学に変更となりました。

関学でも「甲関戦」と呼びます。

一番古い個人記録 砲丸投げ 第14回大会のものです。(関学の方です)

応援についても第一回から、大会の申し合わせ事項に「リーダーを決めて、両校の品位を保ち、盛大に組織的に行う」と決められていました。

甲陽応援団にはオリジナルTシャツが支給されてい

ます。

一番甲陽が勝っている競技はテニス(33勝)、僅差で卓球(31勝)です。

本校では94回生が唯一三年間総合での負け知らず。

59回大会までの成績は12勝40敗7分け。さて今年は…。

今年は去る9月13日(木)快晴の天候の元、関西学院で実施されました。大会前には60回の記念品として両校の校章をあしらったすてきなスポーツタオルが両校の生徒全員に配られました。またこの春から共学となった関西学院では校舎や体育館もリニューアルされ、いくつかの競技は真新しい施設で行われました。応援には女子生徒の声も混じるようになりました。今は両校の保護者の方々も数多く応援に駆けつけられ、一大イベントの様相です。



今年も9競技いづれもが接戦となりました。総合優勝の行方も最終競技となった野球の決着を待つこととなりました。各競技の様子をお知らせいたします。

午前の競技

【卓球】卓球競技は1年2試合、2年2試合、3年5試合(うちダブルス1試合)という形で行われます。12年生の活躍で甲陽が先行するも、関学も追いつき接戦となりました。最後は3年生が意地を見せて、5対4で甲陽勝利。



【陸上競技】400メートルリレー(1年)で本校生がたたき出した50秒0という記録をはじめ、2つの種目で甲関戦記録を塗り替えるハイレベルな戦いでした。フィールド競技でまんべんなく力を発揮した関学が得点で上回り、20対28で関学勝利。



学校だより



【テニス】テニスはシングル4戦、ダブルス3戦の7戦の勝利数で争われます。応援もテニス部員に限る形ですが、いずれの戦いも手に汗にぎる接戦となりました。どの選手どのペアも自分たちの特性を最大限に発揮して、一球一球に気迫のこもったプレーでした。2対5で関学勝利。



【サッカー】市内でもトップの強豪校である関学を相手に、真っ正面からぶつかりました。個人の攻防の局面では後れを取っていませんでしたが、試合巧者の関学に前半の早い段階で失点したことが響き、悪い流れとなりました。甲陽イレブン最後まであきらめず、戦うも0対4で、関学勝利。



【バスケットボール】第一ピリオドから甲陽の攻勢。一気に力で関学を圧倒しました。20対2で終えると、2、3、4ピリオドも安定し戦いぶりで45対35で甲陽勝利。甲陽は県私学大会優勝の実力を遺憾なく発揮しました。



午前中の競技を終えて2勝3敗。

午後の競技

【剣道】やや甲陽有利と言う前評判通り、先鋒が2本勝ちで甲陽が主導権を握りました。次鋒引き分けの後中堅で関学が1本取り返し、副将戦を前に1勝1敗1分け。わずかに本数で甲陽リードの局面で副将が1本を取り、この試合を力で押し切りました。迎えた大将戦でも甲陽は受けの強さを発揮して引き分け。2勝1敗1分けで甲陽勝利。



【水泳】新施設であるオールシーズン使える温水プールでの競技となりました。10の種目で得点を競います。甲陽生は例年より充実した練習で試合に臨みましたが地力に勝る関学の牙城は揺るがず、18対38で関学勝利。



【バレーボール】昨年まで6連勝中と最近のお家芸となったバレーボールは今年も甲陽有利の下馬評でした。しかし1セット目は堅さからか一進一退の膠着した試合となりました。最後には地力を発揮した甲陽が25対23で競り勝ちこのまま波に乗るかと思われました。しかし関学も粘って2セット目を奪取。勝負は3セットにもつれ込む接戦となりましたが、このセットは実力を発揮した甲陽が終盤突き放し、25対17。総合2対1で甲陽勝利。



学校だより



残すところ野球の結果を待つのみとなった時点で4勝4敗。各競技を終えた選手、応援は続々と野球実施グラウンドに向かいました。

の誰もが両校の健闘を惜しみなくたたえ拍手が鳴り止みませんでした。

【野球】序盤から緊迫した投手戦となりました。関学は甲陽のミスにつけ込み塁上を賑わすこともありますが、甲陽投手が後続をピシヤリとおさえて零封。一方甲陽打線は相手投手の抜群のできにヒットを奪うことさえできません。試合はそのまま延長戦に突入。甲陽のチャンスは8回の裏に巡ってきました。先頭打者のこの日初ヒットをきっかけにヒットを重ねてチャンスを広げ二三塁と攻め立てました。しかしこのチャンスに後続が倒れ、サヨナラ勝ちならず。いよいよ試合は最終回。同点のままなら総合でも両校優勝となります。しかしこの日好投を続けていた甲陽エースも遂に力尽き二点を奪われます。9回裏の必死の粘りも及ばず、遂に0対2。関学勝利。スタンドで見守る生徒、保護者



こうして本年の戦いは4勝5敗で惜敗という結果となりました。

来年度も関学会場で、青春の一コマと呼ぶにふさわしい戦いが繰り広げられることと思います。

(嶋吉由喬 記)

60 年 間 の 成 績

Table with 20 columns (種目, 陸上, 野球, サッカー, 卓球, テニス, バレー, 水泳, バスケケット, 総合, 場所) and 60 rows (第1回 to 第60回) showing sports results between Kyoiku Gakuin and Kouyoh Gakuin.



学校だより



同窓生講演会(高等学校)

アイドルに会いたい

脚本家・演出家 岡本貴也氏(72回)

昨年11月9日(金)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において同窓生講演会が行われました。講師にお招きした脚本家・演出家の岡本貴也氏は1991年に甲陽学院高等学校を卒業後、早稲田大学理工学部に進学されました。1997年に大学院を修了後、出版社での編集者の仕事をを経て、2000年に糸井重里賞を受賞し脚本家としてデビューされました。事前に生徒に配られた案内には「恐らく業界で唯一の、理系出身の脚本家・演出家」とあり、テレビ「世にも奇妙な物語」をはじめ、舞台、映画、小説などジャンルを問わず活躍されています。



講演のタイトルが表題のような「刺激的な」ものであったためか、会場はほぼ満席の状態でした。中学時代に一目惚れした女の子にフラれた話に始まり、「絶対女にもてる男になろう」と決めてバンドや勉強に力をいれたこと、早稲田に進学してからは遊びまくったが大学院進学が決まったときに起きた阪神・淡路大震災をきっかけにこのまま研究職の道に進むのではなく、自力で文系の就職先を見つけたいと出版社をまわったことなどの話に生徒たちは引き込まれていきました。

理系の出版社に就職するも半年少して辞め、活動していたバンドも解散し神戸に帰って引きこもりとなったが「やっぱり僕は何かを作り続けたい」という思いがあった、そんな中で書いた小説をきっかけに、東京に戻って出版社でバイトをしながら劇団「タコあし電源」を旗揚げ、脚本を書くようになったという紆余曲折の人生の話を生徒たちは身を乗り出して聞いていました。

出版社で雑誌の表紙担当となり「広末涼子に会ったら会社を辞める」と宣言し見事実現、本当に会社を辞めたというエピソードに会場は爆笑。その後、本気で脚本家を目指しテレビ局での仕事などが舞い込むようになったという波瀾万丈の展開で、生徒たちの人生観は少なからず広がったのではないかと思います。

最後の質疑応答の時間では「プロデューサーになるには?」「文章力を鍛えるには?」「おもしろい作品を書くには?」といったものから「ナンパのコツは?」「給料はどれくらい?」というものまで、様々な質問に芸能界の裏事情を交えながら丁寧にご答えくださいました。

なお、当日の様子をご本人のブログ「脚本家は、肉が好き。」にて紹介されています。

(溝口貴浩 記)

同窓生講演会(中学校)

西洋音楽との出会い

相愛大学音楽学部音楽学科長・教授 黒坂俊昭氏(54回)

今年度の同窓生講演会は、講師として相愛大学音楽学部音楽学科長・教授で54回生の黒坂俊昭先生をお招きして、11月15日(木)の第6限に行われました。先生には毎年、創立記念音楽会のパンフレットの曲目解説でもお世話になっています。



最初に、高校時代の思い出を語られました。先生のご専門は西洋音楽史だそうです。音楽の道を志されるようになったきっかけは、先生が高校2年生の時に本校に着任された松井先生にクラシック音楽の良さを教えていただいたからだそうです。それまでは全く音楽のことは知らなかったそうですが、当時23歳の松井先生に誘われて、夙川カトリック教会でのテレマンアンサンブルのコンサートを聴きに行くようになり、クラシック音楽のことがだんだんと好きになっていったそうです。高校3年生の受験前でも聴きに行かれていたそうです。

次に、「現代のト音記号の書き順は実は間違っている」という驚きの事実を教えてくださいました。現代のト音記号は、文科省の指導で右回りに書くことになっているのですが、日本語の「ト」の音は、ドイツ語の「G」の音なので、Gの文字と同じように元々は左回りで書くのが正しい書き順だったそうです。バッハ、ベートーベン、ブラームス等の直筆の楽譜を見ても、明らかに左回りで書いているそうです。

また、昔のグレゴリウス聖歌の楽譜をスクリーンに映して、解説していただきました。当時の人々が実際に教会で用いていた楽譜だそうです。楽譜の線が4本しかなかったのですが、その理由は一般の人々が歌う音域をカバーするのに4本線で充分だったからということと、貴重な羊皮紙をできるだけ節約するため、だそうです。その楽譜を演奏した実際の録音を聴かせていただくと、その中にベートーベンの第九のよろこびの歌と同じフレーズを聴き取ることができました。ベートーベンは第九を作曲するとき、昔に聴いたことのあるグレゴリウス聖歌が無意識のうちに出てきたのではないかと、さすがのベートーベンでも、何も無いところから芸術を生み出すことは難しかったのではないかと先生は推測されていました。

最後に、松井先生との出会いがあるから今の自分がある、君たちもこの甲陽学院で最高の出会いをしてほしい、という生徒たちへのメッセージで講演を締めくくられました。

(谷晋一郎 記)



学校だより



進路講演会(高等学校)

「激しい」宇宙
 - 高エネルギー宇宙物理学入門 -
 名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構(KMI)
 現象解析研究センター准教授 松本浩典氏(70回)

昨年 6 月 29 日(金)の放課後、本校視聴覚教室において、恒例の進路講演会がおこなわれました。講演は、本校第70回生で現在名古屋大学、素粒子宇宙研究機構現象解析研究センターで准教授として第一線の現場で活躍しておられる松本浩典先生にお願いし、『激しい宇宙』というタイトルで、高エネルギー宇宙物理のいくつかのテーマについてお話いただきました。全校生対象の講演会は、日常生活にある程度のつながりがある医療関係、政治経済関係や司法関係、或いは直接に大学受験関係であることが多く、当日の生徒諸君の参加は、理科系の者だけに偏りはしないかという不安にもかかわらず、文理の区別なく、また、1年生から3年生にいたるまで広い範囲で大勢の諸君、ならびに先生方のご参加がありました。講演の内容も、専門的なことから、阪神タイガースの藤川投手(当時)を例にした喩え話まで、大変熱っぽい魅力的なものでした。



お話は、銀河団という非常に大スケールのことから始まりました。われわれの住む太陽系が属する、この天の川という一つの銀河だけでも大変大きなスケールのものですが、銀河団とはその銀河同士が多数・無論、投げ上げた物が落下してくるとまったく同じ原因で・集まり、広大な宇宙の中のあちら、こちらに見られる物のことで個々の星、ひいては個々の銀河の重さがわかってきたこと、銀河どうしの一見何もない真空と思われている宇宙でさえ、実はかなりの高温のガスがあり、それについての観測もなされてきたこと、等のことから銀河団の持つ重さ(質量)がわかると思われたことが、別の視点から考えられる、銀河団の重さにはるかに及ばないということがわかり、あるはずの重

さを構成するものがどこにも見えないということで、見えない物質が宇宙空間に充満していると想像されて、暗黒物質(ダークマター)とよばれていることで、お話は俄然ミステリアスになり面白くなりました。さて、この暗黒物質はその重さから生じる重力で例えば銀河団をいわば『固める』役割を果たすわけですが、もっと近年になってからは、逆に宇宙の膨張を加速するような未知の物質があるはずだということがいわれ、ダークエネルギーと呼ばれていることも紹介されました。これは、かつてはSFにしか登場してこなかった反重力があるということを示すものになり、今までの知識の枠組みの中に、ダークマターにもまして入りにくいことなのです。

以上のような、大きな宇宙の神秘を覗いたあと、身近な大学入試や大学での勉強といったことにも話は及びました。氏は京都大学理学部で学生時代をすごされたのですが、入学後にこそ勉強をしなければいけないという、いわば当たり前のことを強調されました。というのは、そうでない人が最近多いからです。さらに、言われたこととして、甲陽の生徒に対してもっと意欲的な勉強をして欲しいとして、物理学のある教科書の名を一例に取り上げました。それは、専門課程の大学生に取り上げられることの多い、有名なものなのですが、要するに、「入試の範囲はここからここまで、それ以外は無関係」式の、一見無駄なくこなす勉強方法に対する警鐘ではないかと思われました。

時間いっぱい、講演後の質問の時間もあまり取れずに終わりましたが、このような機会がもっとあればと思ったのは筆者だけではないであろうと思います。

なお、余談ですが、この講演会は6月にあったわけですが、この直後の7月に、スイスの欧州合同原子核研究機関から、ヒッグス粒子が見つかりそうだとの一報が世界中を駆け巡り、マスメディアをにぎわしました。新聞の第一面を賑わし、夕方のTVニュースでも騒がれました。この報道が6月にあれば、この講演会はどんなにかよりスリリングになっていたかと思うと、少しばかり・筆者個人的には・残念です。

(佐藤秀明 記)



学校だより

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した94回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。その方法については、後日別途ご案内いたします。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方(卒業時に7年分の年会費を前納)でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.2の表をご覧ください。

☆ ご注意！住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただいて、慎重な対処をお願いいたします。

会員だより



25回 桜組・桃組・梅組 合同クラス会

平成24年度、桜組・桃組・梅組の合同クラス会を、10月18日(木)に大阪・北新地パーティパークで開催しました。

本年は、桜組2名、桃組3名、梅組2名、計7名の出席でありました。遠隔地からの出席は、梅組平井さんが千葉県印西市から、高田さんが広島市から来られました。

今回の合同クラス会は、桜・桃・梅の3つの組が合同で開催した第1回目となります。我々25回卒は、在学中、3年生の頃から勤労動員に出動し始めたのですが、各組が組単位で、別々の動員先(桜組は尼崎人造石油から住友化工機、桃組は吉原製油、梅組は尼崎火力発電所)であったため、学年としての連携はやや希薄で、卒業後も各組それぞれ単独で行動して居りました。併し、出席者が年々減少して来たので、甲陽学院25回卒と云う共通の思い出を基に、合同で賑やかにクラス会を楽しみたいとの想いで、今回集った次第です。

席上では、共通の思い出に話が弾み、時間が超過し、会場側から、次の予約が入っているのと催促される始末でありました。

最後は、学徒出陣の壮行会等で良く歌った「ああ紅の血は燃ゆる」と、校歌の大合唱で締め括り、来年の再会を約束して散会しました。

今回の出席者は、桜組：錦織達郎、安達正昭、桃組：大塚雅也、殿村収史、松原市郎、梅組：高田典雪、平井健男の7名でありました。

(安達 記)



36回 恒例年1回の同窓会

2012年5月10日(木)午後3時からホテル竹園(JR芦屋駅前)で実施しました。

クラス会に先だって、曾ての動力炉・核燃料開発事業団ふげん発電所所長であった福田達氏が先生となり、テーマ「福島原発事故を考える」で専門家としての見解を少し分かり易く講義されました。出席者は久しぶりに生徒気分を存分に味わった様でした。

その後、“健康と長寿”を祈念しての乾杯、宴と進行し、各自好き好きの歓談(?)の続く中、ほろ酔機嫌、リラックスしたなあと思われる頃合いを見計って、パナソニック

の松下冷機時代の元専務取締役中川博二氏が『松下電器サラリーマン人生』のタイトルにてユーモアたっぷりの講話をされ、みんなを大いに和ませてくれました。

次いで出席者遠方からの諸氏(鮎貝盛和、但井浩二、酒井洋一郎、田村真也、星野彰)、少し久しぶりの二氏(安江敬夫、矢野篤太郎)による近況報告、これを真面目に、熱心に語られていました。

それから、あの懐しの中学校・高校の校歌(指揮田村真也氏)を大きく発声して斉唱、出席者28名は、あの元気澁刺とした少年・青春時代を思い出し、一時を楽しく、気持ちよく過ごしました。

次回幹事の挨拶、記念の集合写真撮影と続き、次回も会えることを楽しみに思いながらの閉会となりました。

なお、有志による二次会、翌日にはゴルフ会も実施されました。

(幹事 原謙三、西村善明、杉野修三)

60回 角一会「静利一郎先生の古希を祝う会」

平成24年5月5日(祝)にノボテル甲子園にて静利一郎先生の古希をお祝いする会を開催しました。当日はゴールデンウィークの終盤にもかかわらず、海外からの一時帰国者も含め33名の同窓生が集まり静先生を囲んで旧交を温めました。

我々60回生は、静先生に6年間担任を持って頂いた最初の学年です。高校が現在の角石町に移転した翌春、新校舎での最初の卒業生となったことから「角一会」と称しています。

これまで角一会では、昭和54年(1979年)の卒業以来、歴代の幹事諸氏の尽力により甲子園にて定期的に同窓会を開催してきましたが、卒業30周年(平成21年)を機に有志によるブログ「1Q79」の開設とメールによる連絡網の拡充により、会員間の交流が更に活発化。平成22年6月には各週末に、東京、大阪、名古屋の3ヶ所で静先生をお招きし、参加人数延べ70名を超えるシリーズ同窓会を開催しました。

尚、今回の「古希を祝う会」では、甲陽時代の思い出のスライドショー、参加者各位から静先生へのお祝いの言葉と近況報告の後、先生によるCountry & Westernのミニコンサートを楽しみ、記念品贈呈の後、先生を囲み全員で「甲陽学院のうた」を熱唱。恩師の古希を祝える喜びの中、お互いの健闘と次回の再会を約して散会しました。



記念の60回を迎えたサッカー灘定期戦

炎暑の昨年、きっと香櫨園と甲子園のグラウンドを走り回った甲陽のサッカー部OB諸氏は、男子ベスト4、女子銀メダルのロンドン五輪日本サッカーの大活躍の姿に、若い頃の自分の姿とダブらせ熱い声援を送ったことでしょう。

未だその熱気がおさまらぬ9月9日、香櫨園の母校中学校グラウンドで、今回で記念の60回となる甲陽-灘サッカー定期戦が開催されました。

歴史をたどると、この定期戦は、昭和23年の新制への学制改革から甲陽が進学校を目指していた当時、サッカーも強くかなわなかった灘を倒すことを目標に、両校が切磋琢磨する場をつくろうと、中村貞三氏(35回29年卒・サッカー部OB会長)達が灘との中高サッカー定期戦を提案、はじめは反対であった学校に灘高の今永俊明氏(30年卒)達の協力を得て粘り強く要請し、昭和28年の第1回開催に漕ぎつけたものでした。

今や大人気のメジャースポーツとなった日本サッカーの発祥は、神戸・阪神間を中心とする兵庫県で、大正10年(1921)甲陽サッカー部はそのサッカー王国のご真ん中に創部されました。そして、神戸一中、関学、御影師範らと覇を競い、勝村弘也君(46回)編のサッカー部小史によれば、大正末から昭和初年にかけて7回も中等学校ア式蹴球大会で全国優勝を果たした輝かしい歴史があるのです。

OBには、卒業後、関学から早稲田に進み、日本サッカーが初めてオリンピックに出場した1936年のベルリンで、初戦の優勝候補のスウェーデンで、前半とられた2点を後半に3点を取りひっくり返して勝った「ベルリンの奇跡」を演じたチームに日本代表として参加した西邑昌一氏(9回)、そして、関学に進学して日本代表になった木村正年氏(22回)、関学4年の昭和28年に西独ドルトムントの第1回ユニバーシアード大会に日本代表として出場した水野隆氏(29回)をはじめ、大学や社会人で活躍した錚々たる先輩がおられました。

サッカー強豪校であった実績と、日本代表を生んだ甲陽というのが誇り灘定期戦実現への力となったといえましよう。

しかし定期戦が始まった当時は灘が圧倒的に強く、高校は6回まで連敗し7回の昭和34年に初勝利。中学は7回まで連敗し、私が中学3年の8回(昭和35年)でようやく初勝利することができました。高校3年の昭和38年も勝ち、中高とも最年長学年の時、灘を破ったのが、ささやかな我等の学年の誇りとなっているのです…。

快晴の青空のもと記念の60回の定期戦は、まず本部テント前に両校の選手が整列して30人を越える両校のOBが揃った開会式では、勝利トロフィーの返還、そして長年指導を続けた灘の村上恒男顧問と甲陽の森本保顧問(51回)に同窓会から感謝状と甲陽同窓会90周年記念のフォトフレームを贈呈しました。

試合は中学が2-0、高校も6-0で甲陽が勝利し、OBの親善試合のあと、午後2時から、グラウンドから歩いて3分の「ベビーフェイス プラネッツ」に少年時代にサッカーに勤しんだ老壮の両校のOB36名が集結(甲陽は最年長29年卒の中村貞三氏始め27名、灘は最年長24年卒の益子

和久氏や39年卒OB会長の安保匡氏ら9名)して懇親会を開催、世代と学校を越えて和気藹々に若きあの頃の思い出を語り合いさらに交流を深めました。

一昨年、灘高の人工芝のグラウンドの竣工を祝い灘での59回定期戦後の懇親会に参加した私と同学年の松下正幸氏(パナソニック副会長)は定期戦で甲陽に負けたことに発奮して県大会の決勝まで行くほど強かったという50年以上前のエピソードを披露、それぞれに定期戦の思い出は強く刻まれているのでした。

これまでの通算成績は、中学が26勝29敗5引き分け、高校が29勝22敗9引き分けとなっていますが、中学の江川恭一顧問の指導のおかげで、近年は中学が1引き分けをはさんで7連勝、高校が4連勝となっています。

甲陽の運動部で特定校との定期戦を続けているのはサッカー部のみで、60年も継続してきたことはまさに誇れることであり、その歴史を大切に守ってきた学校とOBの関係者に厚く感謝を申し上げます。そして、灘五郷が生んだ両校の歴史は未だ100年に満たないけれど、ゆくゆくはプライドを賭けたイギリスのパブリックスクールの対抗戦のように、歴史を積み重ね、100回、200回と末長く継続し、両校の生徒、父兄、OBが挙げて応援する学校行事のひとつとして育てて欲しいもの。そのためにも、一人くらいはオリンピック日本代表が生まれればという甲陽サッカーの夢が実現できれば…。

揚野寛(45回・サッカー部OB・同窓会副会長) 記



開会式でトロフィーの返還



懇親会のあと両校OB揃って



かつてのKOYO蹴球ボーイ達

第11回同窓会ゴルフコンペ報告

文責 中山裕雄 (60回)

平成24年10月14日(日)、男子プロツアーでは日本オープン最終日の決戦に湧いたこの日、第11回甲陽同窓会ゴルフコンペが、武庫ノ台GC(神戸市北区)にて開催されました。当日午前8時の集合時間までに参加者全員33名(9組)が揃い、長年あるいは春の当コンペ以来半年振りの再会を懐かしむ声があちらこちらと聞かれる中、午前8時半過ぎのティーオフとともに、各組が順次スタート。絶好の秋晴れの青空と色づき始めた紅葉を背景にコースの芝が織りなす緑の絨緞の上を進みながら(時には浜辺のような砂場に立ち寄りたり?)、皆さんそれぞれプレーを満喫された様子でした。ラウンド終了後の表彰式を兼ねた懇親会ではゴルフ談義に花が咲き、また新たな実りとして、世代を越えた交流も広がって来た様子もうかがえました。



尚、今回を機に、ゴルフ会初代会長を勤めてこられた平田豊氏(元同窓会長:22回)が勇退され、現同窓会長の西村貞一氏(45回)が第2代同窓会ゴルフ会長に就任。新旧お二方よりそれぞれご挨拶を賜ったのち、新会長の西村氏より、発足以来今日までゴルフ会をまとめ上げて来られたご尽力に対する感謝の気持ちを込め、記念品の目録が平田氏に贈呈されました。続いて、大西久光氏(36回)より、TV放映中の日本オープンに触れながらの専門家解説を中心にスピーチを頂きました(各氏のスピーチは以下に記載)。

暫し歓談の後、三田牛、ワイン、キャディバッグ、校章入りニューボールなど、参加者全員が賞品を手し、次回コンペでの再会を期して帰宅の途につきました。

[平田豊氏] 秋晴れの中、幹事諸氏の協力のもと今回も無事開催できたことを嬉しく思います。数えて米寿を迎える

にあたり、公職的な肩書きをできるだけはずすことに決め、ゴルフ会長を後任に託すことにしました。新会長の西村氏におかれましては、サクラクレパス社長という忙しい立場ですが、宜しくお願ひしたいと思ひます。ゴルフ会の会長はゴルフが上手すぎてもいけません。大切なのは調和の取れた、会全体が自然とまとまる様な人柄であり、その点で西村氏は適任だと思ひます。会長は退きますが今後も参加はしたいと思ひておひります。長い間ご協力ありがとうございました。

[西村貞一氏] ゴルフ会世話役の中村貞三氏より依頼がありお受けした次第です。正直なところ、ゴルフはあまり上手だとはいへません。年間のラウンド数もそれほど多くなく、今回のラウンドも4ヶ月ぶりです。自分にできることを一生懸命やる所存ですので、皆さんよろしくお願ひします。尚、私としましては同窓会会員総会につきましても、この場を借りまして多くの方々のご参加ご協力をお願ひします。

[大西久光氏] 今回も快晴に恵まれ、素晴らしいゴルファーの方々と一緒にゴルフができたことを嬉しく思ひます。先ほどまでラウンジのTVで一部のみなさんと日本オープンを観戦しておりました。パミュダ芝で、グリーンが厳しく、どの選手も40cmから50cmのパットを恐々打っています。このようなコンディションですとアプローチでいいところにつけないといけません。そのためにはセカンドもいいところ、そのためにはティーショットもいいところになって来ますのでとても難しいコンディションで選手たちは戦っています。せっかくの機会ですので今日はパットの話を少し。パー72を目標にする場合、ショット36打・パット36打で考えます。パット数が30ならショットで6打オーバーしても18H全体をパー・プレーで上がれます。パット数を減らすことはショットのオーバー数を減らすことになるのです。やはり2m以内はスパッと入れたいものです。パットは練習すれば確実に上手くなります。ポイントは、①肩をラインにスクエアにする ②頭を動かさない ③頭を残す(カップの方に顔を向けない)の3点です。③は特に重要です。頭が前へ出るとパターヘッドが前へ出ません。しっかりとしたフォロースルーが出来ません。また怖いと思うとヘッドは前へ出ません。これはどのクラブにも当てはまるゴルフの基本でもあります。インパクトまでは頭を動かさない。飛球線に対してスクエアに構える。そして、情報を入れすぎないことです。海外ツアーを経験すると本当の怖さを知ります。忍耐力は増すのですが、情報が増えすぎて決断力は鈍ります。皆さんもこういった点を

踏まえて、練習に励み、実際のラウンドに活かし、ゴルフを楽しんでみてください。話は尽きませんが、今日はこのへんで。ありがとうございました。

[優勝者：綿谷卓氏 (60回卒)] 今日はパットが好調でした。次回の春のコンペでは幹事として頑張りますので宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

[コンペ上位の結果] スコアー 今回HC⇒新HC

優勝：綿谷卓氏 (60回卒) 70.8(グロス84) 13.2 9

2位：足立寛氏 (56回卒) 72.0(グロス90) 18.0 12

3位：宮崎恒彰 (42回卒) 72.8(グロス86) 13.2 12

尚、次回は下記の通り平成25年4月7日(日)に行います。学院OBであればどなたでも参加できますので、ご希望の方はゴルフ会まで気軽にご連絡ください。

第12回甲陽学院同窓会ゴルフコンペお知らせ

日時：平成25年4月7日(日) 午前8時集合 午前8時30分スタート
場所：武庫ノ台GC (神戸市北区：西宮北ICよりR176経由約15分)
連絡先：甲陽同窓会ゴルフ会事務局、下記の何れかに連絡下さい。

中村貞三 (35回卒) E-mail：teisan@d4.dion.ne.jp

吉井友実 (54回卒) E-mail：yoshii517@hcc6.bai.ne.jp

中山裕雄 (60回卒) E-mail：hiroo-na@d5.dion.ne.jp



来れ!!新制1期・2期・3期諸君に告ぐ。

高校卒業60周年記念連続3年間合同同窓会

第1回開催年月日;2013年4月20日(土) PM12:30~15:30

場所;旧高校跡地←→ノホテル甲子園(0798-45-3105)

各回幹事;34回 奈良節雄・水野寛・吉田忠二

35回 沢井陽・三木正之・広本健

36回 原謙三・西村善明

代表幹事 35回 尾山啓二

2013年恒例のサッカー部初蹴り会報告

今年の初蹴り会は写真撮影に遅れたOBを入れると約50名の参加がありました。特にOBで1番乗りした65回芦田良二君・若林正敏君の写真を入れて以下バーレーンから駆けつけ、この原稿をメールで送付してくれた芦田君の参加報告を以下掲載します。



左が芦田良二君、右が若林正敏君

皆さん、あけましておめでとうございます。今回、1月3日に行われたサッカー部の初蹴りに久しぶりに参加しましたので、その様子を私の近況報告とともにお伝えしようと思います。

私は現在バハレーンに駐在し2年半が過ぎました。(普通バーレーンと表記されますが、正しくはバハレーンです。)よくサッカーで日本代表と対戦する、あの国です。中東の小島で人口は100万人程度、日本人は200人ほどいます。

一昨年「アラブの春」を起因としたデモが激化し、サウジアラビアから戦車数百両が橋を渡って押し寄せ武力鎮圧する一幕があり、私もその際には国外避難しました。今もデモは継続しており、つい最近も街のごみ箱に仕掛けられた爆弾が爆発する事件がありましたが、日常生活圏に特に影響はありません。何度か催涙ガスの洗礼を受けましたがあれは非常に強烈で、遠くで発砲されたのがうっすらと流れてくるだけで目と喉が強烈に痛くなります。よく報道で発砲後に白い煙が立ち込める映像が映し出されますが、あの現場にいたら悶絶してしまうこと間違いなしです。

さて、そんなバハレーンで一番人気のスポーツはやっぱりサッカーです。私も在バハレーン日本人チームに所属し、ほぼ毎週フットサルをしています。近隣諸国との交流も盛んで、中東各国の日本人サッカーチームが一堂に会する大会が毎年ドバイで開かれています。去年の大会では、最も高齢かつ素人集団の我がバハレーンチームが決勝まで勝ち進みました。(決勝では惜しくも0-1で敗退しましたが。)

さて前置きが長くなりましたが、今年も初蹴りは1月3日に開かれました。私は同期の若林君(知る人ぞ知るアメフト元日本代表)と懐かしくも骨の折れる坂を登って行くということで、9時に甲陽園に集合していざ出発。(以下は若林君の報告の盗用です。)

『駅の近くの階段のイメージが変わっていたり、登ったあと上に見える広い斜面の大邸宅がマンション?になっていたりと、坂と突き当たるとこのコピー機のあるお店がなくなっていたり等々の変化はあったものの、懐かしい道を登

坂し、30分くらいで到着。

まだ現役がラインを引いているところで、そこに中村貞三OB会長、揚野同副会長、森本顧問先生がおられ、ご挨拶。その後、いつものOB水倉さん、吉井さん他3名ほどの先輩方が来られ、僕らの4つ下1名、6つ下2名、35歳1名、といった具合。プレーをされた中の最年長61歳。

35歳以上+若手補充のチームで20分のゲームを、現役(高1中心)、22歳中心、26歳中心の各チームと行い、1時頃までグラウンドに居ました。かなり寒かったが、いい天気でした。シニアチームは要所に大学サッカー部OBで今もサッカーをしているメンバーがいてかなり球を回せたと思うが、若者はもっと速く、結果は全敗。』(盗用終わり。)

今の若い人はほんとに足元がうまい。球回し、ポジショニングも巧みで、全く歯が立ちませんでした。高1チームがさすがに一番強く、たった20分で4点も取られてしまいました。あれで縦の裏に速い球を出されてスピード勝負に出られていたら、立ち直れないぐらいやられていたと思います。私が現役のころは縦に速いサッカー、と言えば聞こえがいいですが、コーナーフラッグめがけて球を蹴りだしてスピード勝負か、縦の隙間に打ち込んでこれもスピード勝負しかなかったような気がします。あれから30年、変われば変わるものです。これからも、是非毎年参加して、今のサッカーを楽しむ機会としたいと思います。サッカー部OBの皆さんも是非参加してみてください。最後になりましたが、森本先生、毎年有難うございます。いつまでもお元気でいてください。

(65回生 芦田良二)



☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

*次号・第88号は、本年7月末頃に発行を予定しています。

*「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。

*原稿の締切日は、本年6月10日です。

信川百二先生 逝去



1948年から1978年まで30年間母校で体育を担当された信川百二先生が昨年4月24日逝去されました。享年97歳でした。謹んでご報告申し上げます。

信川先生の思い出

佐藤秀明 (53回)

信川先生は私たちが高校から体育の授業を受けた先生である。先生の風貌が、何となくボールのようにコロんとした感じで、若い体育の先生方とはずいぶん異なる印象を受けた記憶がある。

後日、私が甲陽学院の教員として就職した頃の頃である。昔、生徒として授業を受けた先生方はまだ多くおられた。信川先生はもう退官されていたが、体育の山本先生や静先生とお話していると、お辞めになった信川先生が、まだお若い頃、大変高名な体操の選手であられたことを初めて知った。私は甲陽時代、体操部に所属していたが、体操部の顧問でいらした信川先生にはそれほど部活動で指導を受けたことがないのである。その当時我々部員は一応顧問の名前として、信川先生としていたが、先生が名選手であられたという意識が(少なくとも私には)なかったので、指導を仰ぐことなど考えも及ばず、また、先生の方から声がかかることもなかった。おそらくは我々のレベルが低すぎたのだろうか。その頃の体育館は、入り口から入った所に吊輪や平行棒、鞍馬などがそのまま使える状態でおいてあった。後に聞いたことであるが、信川先生はお若い頃はそこでお一人で練習をされていたとのことである。それはともかく、当時の甲陽生にとって、信川先生は体操の選手としてでなく、体育の授業で大変恐いことも平然とされる先生ということで、記憶に残っているのではないだろうか。有名な、運動場の高鉄棒の上を、低い方から高い方へ歩いて行くというものである。(高鉄棒の)低い方です、棒の上に恐る恐る立ち上がる、そのとき地面ははるか下の方に見えるのである。さらにサーカスの綱渡りみたい

により高い方にどれだけ歩けるか一人一人試されるのである。立つこともできずに落ちてしまう者、やっと歩き始めたもののバランスが崩れてすぐに下に落ちる者等々で、それを先生はその場で容赦なく「はい、30点!」、「50点!」というような調子で点がつくのである。棒の上から落ちるときの恐怖もあった。なにしろ下は砂場である。うまく落ちなければ大怪我するかもしれない。高い方に歩いて行けても、今度は降りるのが大変だった。

同じ運動場の鉄棒で、鉄棒の試験もあった。私たち体操部の者数名はそこで大車輪を回って得意げになっていたが、先生は70点ぐらしか下さらなかった。中学校の高鉄棒で大車輪を回って山本先生は100点下さったのに、なんて部員同士で愚痴ってたものである。

一方、先生は生徒会関係の色々な交渉にもよく出てこられた。当時の生徒会の連中はかなりの論客が多く、そんな中で、先生は決然とした物の言い方で発言されていたお姿が目につく。

まだ私が大学生だった頃、体操部の後輩たちの演技を見るために西宮の市民体育館に体操競技大会に行ったことがあった。そのとき、先生のお姿を見かけたので、一言御挨拶に伺った。そのしばらく後に、突如先生に呼ばれ、一も二もなく「ではあとは君に任せるよ」と言われてお帰りになり、私は審判席に座らされた。先生はそうのように、なにか飄々として生きていかれる方であった。ちなみに、当時の甲陽学院にはそのような独特の雰囲気を持たれた方が他にも多くおられたように思う。

私が甲陽学院に勤めてから一度だけ、体操部のOBで集まり、まだまだお元気な先生をお迎えしてお祝いをしたことがあった。先生は私の名前を覚えてくださり、それだけでも光栄で嬉しかった。だが、今思えば私が先生のお姿を目にするのはそのときが最後であったのである。お噂だけは時折いろんな方から聞いていたので、昨年にお亡くなりになったと知ったのはずっと後になってからであり、ご葬儀にでることすら出来なかった。この場を借りて、ご冥福をお祈りいたします。

川畑誠一先生 逝去



1976年から1992年まで16年間母校で理科を担当された川畑誠一先生が昨年8月16日逝去されました。享年85歳でした。謹んでご報告申し上げます。

川畑誠一先生をしのんで

中島 博 (旧職員)

2012年8月16日、川畑先生がご逝去されました。

先生からはいろいろなことを学ばせていただきました。やもすると入試対策の授業になりがちであった本校の物理教育に少しでも実験物理の面白さを導入したいとの考えから、実験のエキスパートである先生をお迎えしました。私は退職

した後もたびたび実験室にお伺いして共同実験をさせていただきました。例えば、天候に関係なく一日の日射量をデジタルに測定できる光量計(我々の命名)を考えてある会社の募集に応募して入選したことなどが特に思い出深いものでした。

なお、先生自身が退職された後、「青少年のための科学の祭典」という行事に毎年参加され、私もお手伝いさせていただきました。

この行事では2002年、東京での全国大会に参加したのが印象的でした。この後身体をこわされ、再びこの行事に参加されることはありませんでした。

先生の残された、この行事参加の実績を絶やす事がないようにと今も私なりに引き継いでいます。いまでは、甲陽学院関係の卒業生にもお手伝いしていただいています。

時々川畑先生の教え子であった方がこんどは先生と
なっ行って事に参加され、「川畑先生はどうしておられ
ますか？」などと聞かれることがあります。

先生に接してみても強く感じたことは、物理実験のす
ばらしさもさることながら、お名前の示すとおりの誠
実な人柄から受ける強い印象でした。人づきあいは決
してお上手ではなかったと思いますが、私などには随
分気を使っていただき、恐縮する事ばかりでした。

また、実験のねばり強さには私などとても及ばない
と思つた事は何度もあります。諦めず、最後まで実験
目的から目を離さないという点では随分教えていた
だきました。

ときどき、神戸でお会いして酒を酌み交わして駄べ
つたことなどが懐かしく思い出されます。いまもお元
気で語り合えたらどんなに楽しいことでしょう。

終わりに先生のご冥福を心からお祈りします。

川畑 俊夫氏	安達 振作氏	三浦 保氏	吉川 元春氏	日下 萬之助氏	高木 正雄氏	木谷 聰生氏	山鳥 辰夫氏	井上 光男氏	玉置 健一氏	西岡 清視氏
(20回)	(20回)	(19回)	(18回)	(17回)	(16回)	(16回)	(13回)	(13回)	(15回)	(11回)
12年4月30日	12年11月15日	11年3月6日	11年10月10日	11年1月10日	04年4月27日	07年2月2日	12年11月21日	12年7月10日	12年4月21日	

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。
謹んで哀悼の意を表します。

訃報

(平成25年1月31日現在)

竹中 功氏	長塩 安之氏	属 俊亮氏	泉 常一氏	財田 良夫氏	宗 光広氏	波多野 則道氏	臼井 泰弘氏	山角 典雄氏	尾崎 郁也氏	四井 光氏	黒川 喜正氏	安雑 孝夫氏	安原 信也氏	占部 英敏氏	成子 精彦氏	阪田 哲夫氏	井上 二郎氏	中村 文治氏	西村 俊一氏	嶋本 昭三氏	津村 優氏	中田 正昭氏	中川 義宣氏	須賀 章介氏	萩原 恒男氏	友清 博夫氏	田原 一夫氏	河西 基氏	加藤 敏之氏	竹中 功氏	水原 巖氏
(高商3)	(高商2)	(高商2)	(高商2)	(高商1)	(51回)	(50回)	(45回)	(44回)	(43回)	(39回)	(39回)	(34回)	(33回)	(33回)	(32回)	(32回)	(29回)	(25回)	(24回)	(24回)	(23回)	(23回)	(22回)	(22回)	(21回)	(21回)	(21回)	(21回)	(20回)	(20回)	(20回)
12年4月30日	12年4月16日	12年5月31日	11年7月24日	12年6月20日	12年4月25日	12年12月31日	08年10月31日	11年5月15日	12年4月	12年6月2日	12年7月26日	12年1月4日	07年11月19日	12年2月27日	12年3月4日	12年8月27日	12年6月16日	11年12月20日	12年12月9日	13年1月25日	12年2月25日	12年7月13日	11年11月22日	12年7月20日	12年11月25日	12年8月16日	12年5月25日	10年5月25日	12年6月20日	12年4月30日	11年4月23日

予告

夏の会員総会で日本の政治について考えよう

講師に産経新聞編集長 乾 正人氏(62回)

8月31日(土) 13時～ 於：ノホテル甲子園

恒例の夏の会員総会、今年度はこのような内容を計画
中です。(申し込み方法など詳細は次号に掲載します。)

<第1部> 式典と講演

昨年末の衆議院選挙で政権が交代し、第2次安倍内
閣が発足しました。今年は7月に参議院選挙も予定さ
れています。めまぐるしく変動する政治の世界につい
て産経新聞編集長の乾正人氏を招いてご講演をいた
だきます。(演題は未定です。)

乾氏は昭和37年神戸市生まれ。甲陽学院中高、筑波
大学比較文化学類卒業後、産経新聞社に入社。新潟支
局、整理部を経て、平成元年より政治部。首相官邸、
自民党、民主党、外務省などを取材。平成19年から政
治部長、平成23年より編集長兼論説委員。

筑波大学経営委員会委員を兼務されるほか、ニッポ

ン放送「高嶋ひでたけの朝ラジ!」コメンテーターも
務められています。ご著書に、「ジャーナリズムの情理」
(産経新聞出版)、「日中の壁」(築地書館)など(いずれ
も共著)。

<第2部> 懇親パーティー

第2部は会場を変えて楽しい懇親の機会をもちたい
と考えております。

今回の主役となるホームカミング学年は、44回(卒業
50年)、59回(卒業35年)、69回(卒業25年)です。記念
品を用意しておりますので、ぜひご参加ください。

なお、今回の総合司会は高橋知裕さん
にお願いしています。読売テレビ「奥様
情報BOX」やテレビショッピングでお
なじみの美女です。乞うご期待。

